JUDI JOURNAL

創刊号　人と街づくりを考える情報誌　2019年7月

目次

巻頭-羅針盤

都市環境デザイン
の新たな地平

各ブロックの活動

●公共空間における「青空市」の役割を再考する
(関西ブロック)
●JUDI石川 2019新春の宴
(北陸ブロック)
●JUDI東北&JUDI北陸酒蔵プロジェクト
(東北・北陸ブロック)
●飲兵衛のための都市づくり
(関西ブロック)
●JUDI通信2019年春号
(国際委員会)
●建築家の街との係わり方
—岸上純子と梅田・中津の場合
(関西ブロック)
●ローカル線の環境デザイン1
(中部ブロック)
●身近な変化の兆しから都市の未来を考える
(関西ブロック)
●港のある街〜新潟の歴史的特性と未来を考える〜
(北陸ブロック)
●ローカル線の環境デザイン2
(中部ブロック)
●団地の団地再生と地域再生等の取り組みを訪ねる
(関東ブロック)
●ローカル線の環境デザイン3
(中部ブロック)
●JUDI通信2019年夏号
(国際委員会)
●文系（哲学）から見た都市環境デザイン
(関西ブロック)

巻頭- 羅針盤

都市環境デザインの新たな地平

関東ブロックでは、2014年12月にアーバンスケープアーキテクトの韓　亜由美氏をお招きし「朝霞浜崎団地トータルバリューアップ」というテーマでセミナーを現地で開催した。思えばこれこそが現在も関東ブロックの連続セミナーとして続けられている「建築・まち・公共のリノベーション」の記念すべき初めての開催となったのだ。

戦後、日本においては高度成長期に急激に増加した社会活動を支え、その需要に対応するための建築や都市施設が大量に生み出されたが、今や人口が減少へと転じていく社会構造のなかで、それらは大きな転換点を迎えている。既存の建築や都市に新たな価値を吹き込み適切な規模に集約し、その質を向上させていくひとつの方法論として再編成や再構築（リノベーション）が注目を集めている。

本セミナーは単なるスクラップアンドビルドではなく、時間や人々の生活の堆積に価値を見いだし開かれた公共の創出に挑戦している方々をパネリストにお招きし、できるだけ現地を見て建築、まちづくりにおけるリノベーションの実践を紹介いただくと共に聴衆を交えて議論を深めるというスタイルで続けられている。これまでにジョンソンタウンや男山団地などで計5回開催されてきた。

都市環境デザインのあり方や位置付けがＪＵＤＩの設立時とは大きく変わってきていると言われている。その方向性の一つが確実に「建築・まち・公共のリノベーション」であると信じて、関東ブロックは引き続きこのテーマを深掘りし、都市環境デザインの新たな地平を探る研究を進めていきたい。

理事/関東ブロック運営委員　須田武憲

関西ブロック

2019年第1回都市環境デザインセミナー

公共空間における「青空市」の役割を再考する

　これまで新春の特別セミナーとして公共空間をテーマに２回行ってきた。

・2017年　公共的なオープンスペースにおける商活動

・2018年　改めて公共空間の自由利用について考える

　３回目となる今回は「青空市」に焦点を当てることにした。人類の歴史とともに歩んできたともいえる「青空市」は、いまその意味合いを新たにして展開しつつある。市、露店市、縁日、夜店、定期市、街路市、朝市、マーケット、フリマ、マルシェなど、さまざまな名前で呼ばれる青空市が、都市空間にもたらすインパクトについて論じる。

＜講師と論点＞

・解題と問題提起（鳴海邦碩：大阪大学名誉教授）

・まちを面白くする「マーケット」／人びとの参加と地域資源の活用（鈴木美央）

・「朝市ひろば」の魅力（山下裕子）

＜コメンテーター＞

・人と市場の「見える化」の観点から（加藤寛之）

・オープンスペース利用の観点から（赤澤宏樹）

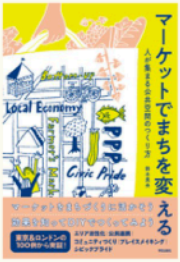
講師・コメンテーターのプロフィール

鳴海邦碩

大阪大学名誉教授、関西大学客員教授。日本都市計画学会元会長。大阪をはじめ関西の各地のまちづくりを支援。インドネシアをはじめアジア諸国の都市環境調査を行なってきた。サントリー学芸賞、不動産協会賞等を受賞。著書に、『都市の自由空間』『都市の魅力アップ』『失われた風景を求めて』他多数。

鈴木美央

1983年兵庫県神戸市生まれ。O+Architecture 主宰。早稲田大学理工学部建築学科卒業後、渡英し、Foreign Office Architects Ltd.にて５年間勤務。帰国後、慶應義塾大学理工学研究科勤務、2013年より同大学博士後期課程在籍、2017年博士号（工学）取得。専門は建築意匠設計、公共空間の利活用、マーケットの企画・運営、親子の居場所。著書に『マーケットでまちを変える 人が集まる公共空間の つくり方』(学芸出版社)。



山下裕子

1974年鹿児島生まれ。㈱まちづくりとやま 第1事業部主査、NPO法人GPネットワーク理事、鹿児島生まれ。富山に移住し、演劇やアート関連イベントの企画制作に携わる。2007年よりグランドプラザ運営事務所勤務。2009年（財）地域活性化センター第21期全国地域リーダー養成塾修了。2010年より㈱まちづくりとやまグランドプラザ担当。2011年よりNPO法人GPネットワーク理事。その後、久留米、明石、八戸のひろばづくりに関わっている。

加藤寛之

1975年千葉生まれ。都市計画家。大学在学中よりシンクタンクで働く。卒業後、イタリア大小20以上の都市を巡りローマに住む。まちに変革を起こす青空市を全国25エリアで展開。大阪市、大東市、丹波市、三田市、伊賀市、鹿屋市では地元の有志と法人設立等によりエリア再生に主体的に関わる。地元大阪阿倍野にて良き商いを守り育てるBuy local、自ら経営するSTAY local（宿）とTHE MARKET Bakery（パン屋）等まちの期待値を高めるムーブメントをライフワークとして取り組む。

赤澤宏樹

1970年大阪生まれ。兵庫県立大学自然・環境科学研究所　教授、兵庫県立人と自然の博物館自然・環境マネジメント研究部　研究部長、淡路景観園芸学校　主任景観園芸専門員。コミュニティを育む・コミュニティが育むオープンスペースについて研究・実践している。2014-2017年まで国際公園管理運営士（CIPP）。World Urban Parks, Japan理事。

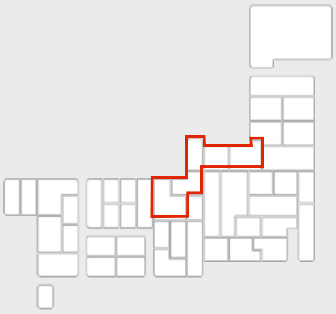
北陸ブロック

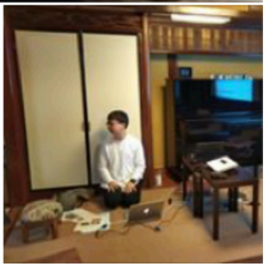
JUDI石川 2019新春の宴

プログラムのひとつ目は、ミニフォーラムです。まず、島由治さん。テーマは「7市村をつなぐ、環白山地域の連携」です。地域の宝「白山」での活動についてお話しいただきました。「白山」からはいつも沢山の恩恵を受けています。(JUDI 都市環境デザイン会議 北陸ブロック)

引き続き、豊島祐樹さんです。テーマは「プロダクトから都市まで」。これまでのご経歴から、師匠である黒川雅之さんから学ばれたことなどをお話しいただいています。これからJUDIのメンバーとして活動していただけるのでしょうか！？(JUDI 都市環境デザイン会議 北陸ブロック)

新春の宴！今回のミニフォーラムは、白山の自然保全に関わる活動をされてる島さんのお話と、新メンバーの豊島さんのお話。活発な意見交換が行われ、あっというまの時間でした。（上坂 達朗）





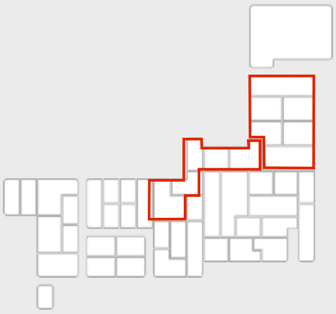
東北・北陸ブロック

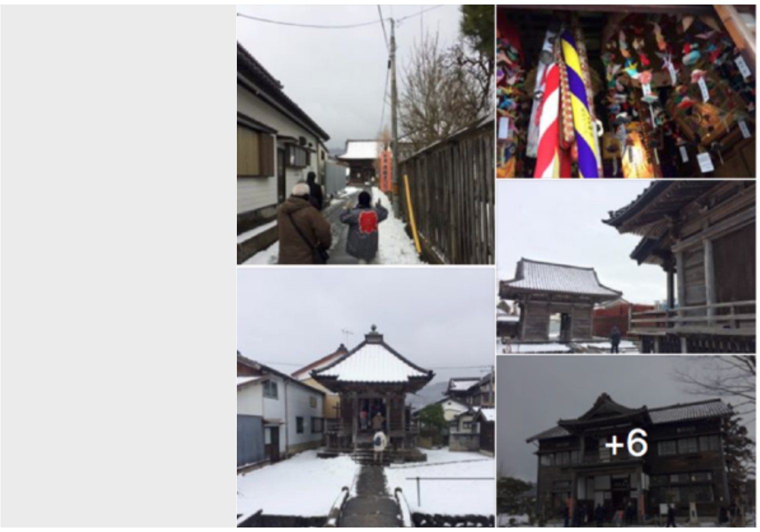
JUDI東北＆JUDI北陸酒蔵プロジェクト

　大山新酒まつり！街ぐるみでのおもてなし。街中に点在する文化財を開放して、休憩所としたり、ボランティアガイドさんに街の魅力を案内もらいながらの酒蔵巡りはとても面白いですね。（上坂 達朗）

　東北酒蔵プロジェクト第２弾
2日目は鶴岡市内のエクスカーション。
羽黒山の麓、山伏の宿坊が立ち並ぶ手向集落に来ました。千四百年の歴史があると言われる重々しい雰囲気が漂っています。しかし、雪が〜！
（上坂 達朗）

　鶴岡エクスカーション二箇所目は松ヶ岡開墾記念館。日本最大の蚕室群10棟のうち5棟が残り様々な形で活用されている。そのうちの１つで、日本遺産に認定された鶴岡シルクのブランディングに力を注いでいる大和さんのお話を聞かせて頂きました。あのせごどんも賛同した開墾の歴史を今に紡ぐ鶴岡シルク。素敵です。
（上坂 達朗）





関西ブロック

2019年第2回都市環境デザインセミナー

飲兵衛のための都市づくり

　なぜ、人々は都市に集まるのであろうか。エッセイストであるジェイン・ジェイコブスはそこには様々な機会があるからだという。「セックス・アンド・ザ・シティ」の元ネタ本を著したキャンディス・ブシュネルは、そこでは相手をたくさん選べる機会があるからだと見事に看破して、それをコミカルに描いた本も映画も一世を風靡した。

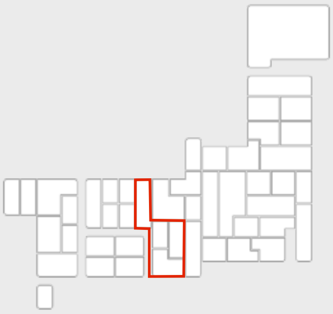
　また、経済学者のアルフレッド・マーシャルは、集積の経済があるからだと指摘した。物理学者のジェフリー・ウェストは都市規模が大きくなると、それにつれて都市の生産性が高まるという、それまでの概念としての集積の経済をデータを用いて実証した。

　さて、しかし、私はより重要な理由は、都市は酔っ払うのに最も楽しい環境を提供してくれるからだと考えている。つまり、楽しく酔っ払いたい人達は都市に集まるのであるし、都市はそれを見越して、酔っ払いのための都市づくりを行ってきたのである。したがって、都市で最も大切な場所は、楽しく安全で酔っ払える場所である。

　これは、逆の発想で捉えると、人が集まる都市ほど楽しく酔っ払えることが可能であり、最近の地方都市の衰退は、この都市の胆を理解していない都市計画を推進してきたからだと思われる。すなわち、酔っ払いのことを配慮しない都市計画、都市づくりを推進したことが衰退への引き金を引いてしまったのだ。

　若干、素面で聞くのには適していない内容かもしれないし、聞いた後、悪酔いされるかもしれないが、本人はしっかりと素面の状態で上記の考えをお話をさせていただくつもりである。

(服部 圭郎)



　関西ブロックの3月セミナー、始まりました。

　服部圭郎先生による、飲兵衛のための都市づくり。お酒が美味しいことはもちろんだけど、歩いて帰ることができるか、酔っ払ってもまちを歩けるかで、都市比較始まりました。

(JUDI都市環境デザイン会議)

国際委員会

JUDI通信2019年春号

JUDI通信2019年春号へリンク

JUDI 通信

2019 年春号（No.11）
発行元：都市環境デザイン会議国際委員会
〒 114-0012 東京都北区田端新町 3-14-6 ノザキ C ビル
HP: https://hattorikeiro.wixsite.com/judi-international
発行日：2019 年 3 月 20 日

都市をデザインする

山形県鶴岡市にある東北公益文科大学大学院に研究室を持ち、学生や市民とまちづくり活動を始めたのが 2005 年。気がつくと、庄内地域が、私の主要フィールドとなっている。

静かなたたずまいと地域社会に根差した人々の暮らしが途切れることなく続くこの地で「都市をデザインする」とは、歴史や風土との連続性の中で「今あるもの」をうまくいかしながら、これからの暮らしに必要なものを豊かな構想力と繊細なディテールで、丹念につくり込んでいくことである。それは地域固有の風景にさらなる深みと「らしさ」を与えることでもあるだろう。

鶴岡まちなかキネマでは築 80 年を超えた木造絹織物工場を 4 つのホールを持つ映画館にリノベーションした。まちの中心部に映画館を含む文化拠点を作るという荘内銀行頭取（当時）の革新的なアイデアは、まちの中の産業文化遺産で多くの人々が映画を楽しむ風景となってたち表れた。

港町酒田で取り組んでいるのは、映画「おくりびと」で廃墟的な魅力が描かれた旧割烹小幡の再生である。大正期に名物女将が増築した洋館は、映画に描かれた現在の姿とは全く違い、当時流行したセセッション風のしゃれた外観を持ち、内装には輸出品であった和製マジョリカタイルが使用されていた。築地精養軒で修行したシェフたちにより本格的なフランス料理がふるまわれ、今に名高い「酒田フレンチ」の元祖ともいえる店であった。

朽ちた廃墟の味わいも悪くはないが、次の時代につながる生き生きとした風景を作りたい。私たちは「市民の記憶としての外観保存」という定石にとらわれることなく、映画ロケに使われた外観を一掃し女将の思いのこもった大正建築を復活させることを提案した。現在実施設計中である。

城下町鶴岡の城址公園に建つ藤沢周平記念館では雪国の風土が生んだ「さや堂」形式をとりいれた。また主要な空間軸や共用空間の配置を、内部からの論理ではなく歴史的なまち割りなど周辺環境条件との応答で決定するという設計方法を試みた。

庄内町ギャラリー温泉町湯では、この地域に多く見られる土縁をもつ町家の形式を採用し、奥に細長く延びるギャラリーを作ることで、狭い敷地という不利な条件を逆手にとった。

賑わうまちなかキネマ、エントランスホール

造り残したこともある。鶴岡では町人地のまち割りを活かした街区内部の空地を共同使用する集住形式を提案したい。歴史的な空間構造と個々の更新力をデザインの力で統合する試みである。一つの手がかりは 1934 年築の RC 建築が木造町家と同じように表通りから奥の空地に抜ける通り庭を内包しているというところにある（私たちはこの建築を登録文化財に推薦した）。空き地や空き家の目立つ中心部に人々が都市生活をゆったりと愉しむ風景をつくりだしたい。

海に向かって下っていく港町特有の酒田のまち割りにも大きな可能性を感じる。ここには酒田大火のあとの復興 RC 住宅（なんと PC 造）がある。このストックをいかしながら若い人たちが競って出店を望み、住みたがる都市的な風景に変えていきたい。

私たち人間は環境や風景との応答の中で自己形成を行う生物であり、環境や風景が安定した姿を保てないときに、よりどころを失ってしまう。しかしその安定は不断の代謝、更新から成り立っていることも忘れてはならない。地域の文化や風景にしっかりアンカーされることを心掛けながら、時代の新しい課題に答える自由な構想力を表現したいというのが私の思いである。都市をデザインする専門家としての、責任とやりがいはここにある。

高谷時彦：1952 年香川県生まれ。東京大学都市工学科卒、槇総合計画事務所をへて㈱設計計画高谷時彦事務所。日本建築学会作品選奨他。共著に「見えがくれする都市」,City with a Hidden Past 他。山形県都市計画審議会会長他。

四季雑感

研究室の学生たちが、千里ニュータウン内の公園で小さなカフェを始めて 3 年が経つ。初めは私がふるまいコーヒーをやりたくて、移動式のカフェスタンドを学生たちに作ってもらった。ちょうどその頃、吹田市長が千里南公園にカフェを誘致する事業を公表した。この事業のプレ調査のために、このカフェスタンドが活躍した。学生たちがコーヒーをふるまいながら、アンケートやヒアリングを実施した。公園には様々な人が行き交っている。そこにカフェスタンドを出すと、人々が近づいてきて、コーヒーが入るのを待ちながら会話が生まれる。そこに、通りかかった人が加わる。そうやって思いもしなかった人の出会いが始まる。そんな現場にはまってしまった学生たちが、それ以来カフェを続けている。café au café（カフェ・オカフェ）という。私もなにかやりたい、と言ってきた人が隣でアロマの店を出したり、手作り品を売る人が現れたり。学生たちが「お披露目マルシェ」と名付けたにぎわいが、公園の日常の中に生まれつつある。この 2 月、計画通り公園にカフェならぬレストランがオープンした。café au café はこれからどうなるか、3 月 17 日に平成 last au cafe を実施して様子見、私たちも次のステージに移りつつある

（関西大学教授　岡絵理子）

関西ブロック

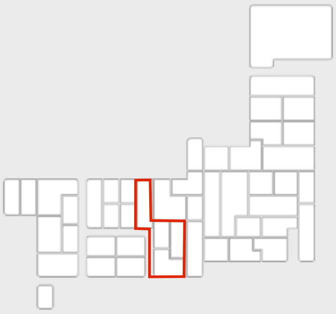
2019年第3回都市環境デザインセミナー

建築家の街との係わり方
―岸上純子と梅田・中津の場合

　都市計画や建築のプロが、自らの住む地域のまちづくりにどのように関わるのか。また、女性が仕事と暮らしの折り合いをどうつけるか。そのような問いかけなどにとらわれず、地域の将来を夢見ながら生活者として地域のまちづくりを楽しみ、地域での暮らしの質を高めている建築家を紹介します。

　SPACESPACE一級建築士事務所として、ユニークな作品で様々な建築賞を受賞する若手建築家として注目される一方で、住まいのある梅田、中津界隈を舞台に、地域の人々とともにまちづくりに関わり、忙しくも、しなやかに暮らす日々について語っていただきます。

（世話人　岡絵理子）



●岸上純子プロフィール

　1979年大阪生まれ。

　SPACESPACE一級建築士事務所共同主宰、一般社団法人うめらく 企画担当。阪急中津駅に近い「中津商店街」の中に元乾物屋と果物屋の築100年の長屋を購入し、住居兼事務所として2年かけて自らリノベーション。

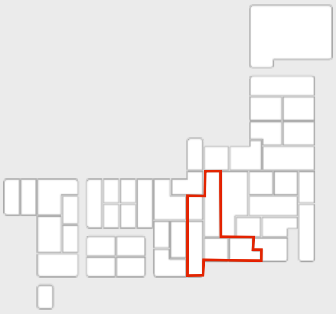
　中津という場所で家族と共に生活のほとんどを過ごしながら設計事務所を営み、一方で建築の専門学校や大学で講師を務める中で、自らや学生と社会や地域をつなげることを大切に活動している。

中部ブロック

ローカル線の環境デザイン1

2019中部ブロックの公募プロジェクトとして、4月6日、5月2日、6月8日に愛知、三重、岐阜でのローカル線の環境デザインセミナーを企画しました。それぞれ魅力的な企画になっていると思いますので、全国の鉄ちゃんＪＵＤＩの方々はふるってご参加ください。
（柳田良造）

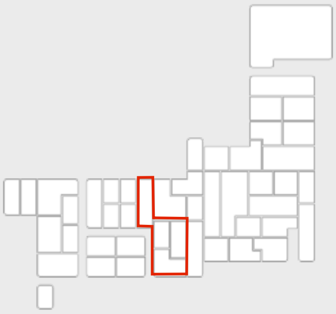
豊橋市電全線踏破で本日のローカル線環境デザインは締めです
(須田 武憲)



関西ブロック

JUDIフォーラム2019
「身近な変化の兆しから都市の未来を考える」

　人口減少をはじめとする社会状況の大きな変化やAIをはじめとする技術革新の急速な発展など、先行きを見通しづらい状況の中で、私たちはいかにして未来の都市を描くことができるだろう？その手立ては、いま、目の前にある身近な暮らしのなかのリアルな変化の兆しを丁寧に捉えることなのではないだろうか。
　本フォーラムでは、身近な暮らしの変化と都市の大きな変化をつなぎ合わせ、都市の未来を考えるきっかけを共有するとともに、あたらしい都市環境デザインの手法を探りたい。
（フォーラム委員長　武田重昭）
リンク



　関西ブロック主催のフォーラムを開催しました「身近な変化の兆しから都市の未来を考える」をテーマに縮小する都市、AIの影響、田園都市、高齢者施設、地産地食など多面的な議論を展開しました。JUDI会員に限らず20代〜30代の若者でフォーラム委員会を組成し、会場設定やwebを活用した意見徴収、キャッシュオンでの懇親会など、随所に新しい試みが散りばめられた濃厚な時間となりました。若い人たちの意気込み、熱意を感じる良いフォーラムとなりました。(岸田文夫)

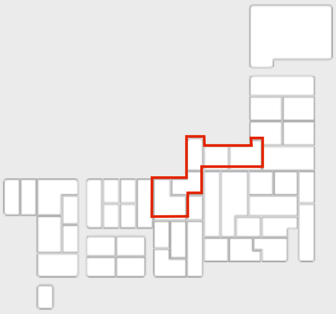
北陸ブロック

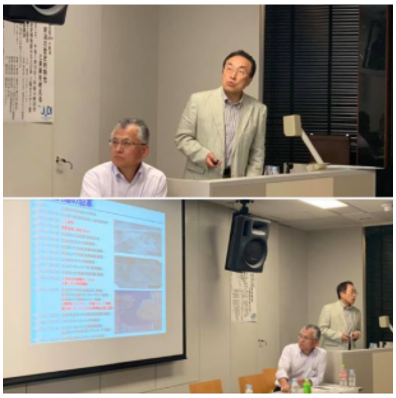
港のある街〜新潟の歴史的特性と未来を考える〜

　フォーラム「港のある街〜新潟の歴史的特性と未来を考える〜」がスタートです♪
今回の司会は関本さん、ご挨拶は小見さんよりいただきました。

「港のある街〜新潟の歴史的特性と未来を考える〜」と題して、NPO法人新潟みなとクラブ理事長の石井洋司さんから基調講演をしていただいています。

　パネルディスカッションのコーディネーターは、恒例となりつつあります水野一郎先生。パネラーは、新潟は石井洋司さん、富山は柳原恭順さん、石川は木谷弘司さん、福井は辻隆治さんです。
　4県の港を比較してみましょう。まずは、柳原さんから、富山の港についてご説明いただきます。引き続き、石川の港について、木谷弘司さんです。
　4県の最後は、福井の港について、辻隆治さんです。
　エクスカーションは、まずは清水園です。清水園は、旧新発田藩下屋敷庭園です。とても素敵なところです。池は「水」という字の形だそうです。





中部ブロック

ローカル線の環境デザイン2

　2019中部ブロックの公募プロジェクトとして、4月6日、5月2日、6月8日に愛知、三重、岐阜でのローカル線の環境デザインセミナーを企画しました。それぞれ魅力的な企画になっていると思いますので、全国の鉄ちゃんＪＵＤＩの方々はふるってご参加ください。
（柳田良造）

2019 ローカル線の環境デザイン 2　　伊賀線と初瀬街道を旅する

■ 2019年5月2日（火・祝）
08：50　近鉄名古屋駅集合
09：00〜10：36　近鉄名古屋駅から青山町駅へ移動
10：40〜12：00　青山町初瀬街道を歩く
12：00〜13：00　初瀬街道の「伊勢慶」で昼食
13：20〜14：01　青山町から伊賀神戸経由上野市駅まで移動（伊賀線乗車）
14：15〜16：45　伊賀上野市街地と町並み（伊賀街道沿い）見学
16：45〜18：30　伊賀街道の「金屋」で懇親会
18：37〜20：38　広小路駅から伊賀神戸経由近鉄名古屋駅へ移動後解散

伊賀線と初瀬街道

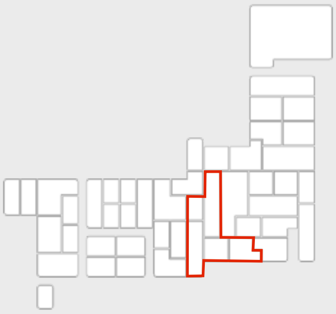
伊賀上野駅から伊賀神戸駅を結ぶローカル線である。伊賀上野駅からはＪＲ関西本線とつながり、伊賀神戸駅からは近鉄大阪線とつながるように、東西方向の両幹線を伊賀上野地域で南北につなぐ路線である。2007年10月1日に近畿日本鉄道（近鉄）から伊賀鉄道に運営が移管された。歴史的には、大正期にまず伊賀上野市街地中心部（伊賀市駅）と関西本線を結ぶ線として生まれ、その数年後名張まで延び、参宮急行電鉄（後の近鉄路線）と結ぶ。
伊賀上野は旧伊賀街道沿い等、魅力的な町並が残る市街地がある。また伊賀神戸駅から近鉄大阪線で一つ目の駅である青山町駅周辺も、古代から大和と伊勢神宮を結ぶ街道であった初瀬（はせ）街道が通り、歴史的遺産が豊富である。初瀬街道とは奈良県桜井市の初瀬と三重県松阪市六軒を結ぶ街道である。壬申の乱の際、大海人皇子も通ったと言われる重要な街道であり、比較的平地の多い道であった。
今回のローカル線の環境デザインツアーはローカル線に乗ることに加え、歴史的町並巡りと伊賀肉すき焼き名店「金屋」（伊賀上野）、「若戎酒造」と「伊勢慶」（青山町）など、食の楽しみも満載である。

青山町の町並と名店

若戎酒造　　伊勢慶（若戎酒造の酒と創作料理）

　伊賀鉄道に乗って伊賀上野城に!!
(栗原 裕)

　今日の昼食はJUDI中部ブロックの皆さんとここで!!
(栗原 裕)



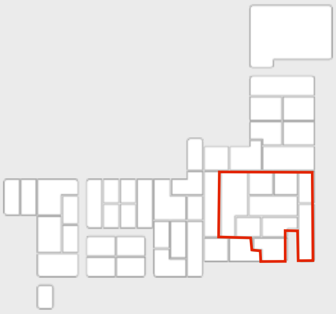
関東ブロック

第11 回　JUDI 関東拡大セミナー

男山団地の団地再生と地域再生等の取り組みを訪ねる

「建築・まち・公共のリノベーション〜その5」」

　高度成長期に、急激に増加した社会活動を支えた建築や都市施設が、人口減少社会への転換期の中で、どのように再編されていくのか。ストック活用型の団地再編プロジェクトが実施されている男山団地（京都府八幡市）・南花台団地（大阪府河内長野市）を視察し、プロジェクトを実践されている江川教授（関西大学）他プロジェクト実践者及び関係者に話をお聞きします。



中部ブロック

ローカル線の環境デザイン3

　2019中部ブロックの公募プロジェクトとして、4月6日、5月2日、6月8日に愛知、三重、岐阜でのローカル線の環境デザインセミナーを企画しました。それぞれ魅力的な企画になっていると思いますので、全国の鉄ちゃんＪＵＤＩの方々はふるってご参加ください。
（柳田良造）

2019 ローカル線の環境デザイン 3　　初夏の養老鉄道を旅する

■ 2019年6月8日（土）2019 ローカル線の環境デザイン3・養老鉄道

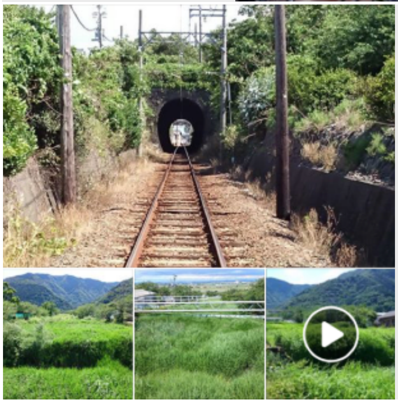
09：50	桑名駅集合
10：05 − 10：19	桑名−多度
10：30 − 12：15	多度大社見学（レンタサイクル・昼食）
12：19 − 13：13	多度−大垣
13：25 − 13：49	大垣−揖斐
13：50 − 15：00	揖斐川町の町並見学（レンタサイクル）
15：15 − 15：40	揖斐−大垣
16：45 − 17：30	大垣市内見学
17：30 − 19：30	大垣市内懇親会
20：00	大垣駅解散

●養老鉄道
揖斐川流域西側を縦断する路線で、岐阜県と三重県を直結する唯一の鉄道路線である。多度駅から美濃高田駅までは養老山地の麓を走る。養老山脈の麓は濃尾平野に向かって扇状地が広がる地域で、扇状地によく見られる水無川や天井川が見られ、鉄道路線が川の下をトンネルでくぐる箇所がいくつもあり、この路線の特色と言える。
歴史的には、四日市港と敦賀港を結ぶ鉄道敷設を計画した四日市の井島茂作は三重県と岐阜県の沿線の有力者を説き歩き、その賛同を得て出した鉄道敷設願いに対して1897年（明治30年）に仮免状が下付された。しかし沿線の利害関係（当時は揖斐川、牧田川、水門川の舟運が盛んであった。また大垣以北の誘致争いもあった）や不況もかさなり実現の目処がたたなかった。1911年（明治44年）になり井島は地元出身である立川勇次郎（大垣出身の実業家で京浜急行電鉄や揖斐川電力（イビデン）初代社長）に養老鉄道建設に参画するよう依頼した。立川が社長となり（初代）養老鉄道を設立し、1913年（大正2年）7月に養老 - 大垣 - 池野間が開業することとなった。用意した車両はすべて中古車で鉄道院より機関車5両、南海鉄道より客貨車を購入した。また養老公園の整備や養老ホテルの建設を行った。
第二期工事となる桑名 - 養老間、池野 - 揖斐間は1916年（大正5年）に工事に着手したが、第一次世界大戦勃発のため資材が高騰した。このため工事は遅れ1919年（大正8年）4月に全線開通となり、養老線の総延長は58km となった。
沿線には多度大社や養老の滝などの名所が多い。途中にあるJR東海道本線・樽見鉄道乗り換え駅の大垣駅は、桑名方面と揖斐方面との線路が合流するスイッチバック形の配線となっている。

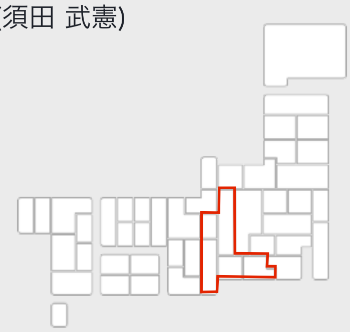
都市環境デザイン会議・中部ブロック

　JUDI中部ブロック 2019ローカル線の環境デザイン3
初夏の養老鉄道を旅する
桑名からスタートです。
マストでK原メンバーがいます。
(須田 武憲)

　養老鉄道はサイクルトレイン。
レンタサイクルを積み込みます。
(須田 武憲)



　扇状地の下をくぐる養老鉄道。
上を流れる天井川は、砂防ダムの影響か、モダンアートの様相になってます！
(須田 武憲)



国際委員会

JUDI通信2019年夏号

JUDI通信2019年夏号へリンク

JUDI 通信

2019 年夏号（No.12）
発行元：都市環境デザイン会議国際委員会
〒 114-0012 東京都北区田端新町 3-14-6 ノザキ G ビル
HP: http://hattorikeiro.wixsite.com/judi-international
発行日：2019 年 6 月 20 日

都市をデザインする

見えない社会デザインとしての都市デザイン

バルセロナ　ラバル地区

先日、関西圏の実務家・研究者の仲間たちと『小さな空間から都市をプランニングする』（日本都市計画学会都市空間のつくり方研究会［編］／学芸出版社）を上梓した。研究会としてこだわったのがプランニングという営為である。計画という和訳には収まりきらない主体や行為の多様化を踏まえ、あえて英語の表現を用いた。

都市空間にはそれを認識し、それに働きかける主体がいる。そうした主体の計画的思考（都市空間に対して働きかけをしようとする主体の意思＝プランニングマインド）により、空間的技法（都市空間を認識し働きかける際の手がかりとなる枠組み＝デザインスキーム）を用いて都市空間を漸進的に変えていこうとする試みを「プラニンニング」と整理した。そして新たな時代のプランニングとして、「小さな空間の価値を大きな都市につなげる 10 の方法」を提言した。それらは、①都市の「ツボ」を探す、②空間を地域に開く、③エリアの外側への影響を踏まえる（【小さな空間を連帯させて都市の効果を高める】）、④テンポラルな実践を重ねる、⑤「計画」をリノベーションする、⑥ゆっくりと時間をかけて育てる（＝【小さな時間を積み重ねて都市の魅力を育てる】）、⑦プロセスそのものを目的にする、⑧行政のリーダーシップからフォロワーシップへ、⑨ユニバーサルからダイバーシティに向けて、⑩まちに対する期待を高める（＝【小さな共感を生むことで都市の全体像を描く】）、である。

小さな空間から出発し、都市全体への波及を戦略的に講じていく。小さな動きから都市を大きく変えてしまう。そこに次世代の都市デザインの挑戦の場があるのではないだろうか。様々な都市において「まちかど」レベルでの小さな再生の取り組みが数多く展開され、まちの維持再生に希望を灯している。小さく多様な再生の連鎖がまちの活力を支えていく構図は、もはや一般的ですらある。

今後の都市デザインは、多くの事例が示唆するように、地域資源の発掘を後押しし潜在的な魅力を引き出したり、新たな魅力を付与したりすることで、都市そのものの可能性を増大させていく役割を強めていくべきである一方、市場原理に委ねたままでは解決が容易ではない問題（市場性に劣る社会住宅の整備、ジェントリフィケーションやオーバーツーリズムへの創造的対応等）への粘り強い解決に寄与していくという第一義的役割も並行して再認識されるべきだ。OECD による報告書 Resilient Cities（2017）や SDGs における Inclusive Development に顕著に表明されているように、今後の都市政策が幸福度を踏まえた包摂的成長や新たな社会情勢に適応できるしなやかさを備える方向性に舵を切っていくべきことが世界的に共有されつつある。空間への介入を通じて「まちらしさ」を創出する都市デザインも、今後は福祉的性質を強めていかざるを得ない。従来の市場対立型の規制的アプローチあるいは市場融和型の緩和型アプローチから、プレーヤーの反応や社会的弱者の包摂を読み込んだ市場調和型の戦略的都市デザインへとその姿を最適化していくことが新たなタスクとなる。

都市の存在理由は、わたしたちの存在理由でもある。都市は誰かとの予期せぬ出会いを可能とし、その出会いが創造の波紋を投げかけ、やがて様々な波長とシンクロし、揺るぎない伝統や革新をもたらしていく。そして本格的な人口減少社会を迎えた今後、個々人の「生きがい」の発露と都市空間の再編は、分ちがたく結びついていく。それを支える「見えない社会デザイン」としての都市デザインの理論化を図りたい。

阿部大輔：1975 年生まれ。龍谷大学政策学部教授。早稲田大学土木工学科卒業。東京大学大学院工学系研究科（西村幸夫研究室）とバルセロナ建築大学博士課程にて都市デザインを学ぶ。

四季雑感

出羽三山信仰の宗教集落、手向（とうげ）の雪は深い。修験者／山伏の住居であることを示す立派な抜き通し門が半分以上雪に埋まっている。温暖な瀬戸内で生まれ育った私には、想像もできない厳しい暮らしである。

手向集落でも山伏として道者（里からくる修行者）を迎える宿坊を営む人は少数となった。多くの人がサラリーマンとなっている。しかし雪の少ない平地に降りずここに暮らす意味は何か。それは、羽黒山と共にあるという拭うことのできない自然に身についた感覚であり、峰入りなどの修行、祭りや出羽三山神社や集落の行事を通して修験道を千数百年守ってきた誇りである。

誇り高い山伏のまち・・・まち並みはその営みの集団的な記憶を表現している。私たちの研究室はこの 10 年来、まちの将来を真剣に考える住民とともに、まち並み修景に取り組んできた。ようやく制度が整い、信仰集落にふさわしい風格あるまち並みが徐々に私たちの前に現れつつある。

（株設計計画高谷時彦事務所：高谷時彦）

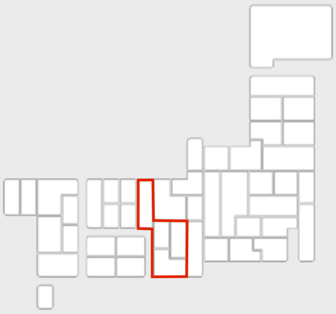
雪の中の宿坊

関西ブロック

2019年第4回都市環境デザインセミナー

文系（哲学）から見た都市環境デザイン

　都市空間、都市づくりに関して、社会学や政治学、哲学などの文系の諸分野においてさまざまな考察がなされ多くの書物が刊行されている。しかしながら、都市づくりの実際を担う分野の者との考えの交流は必ずしも盛んではないのが実情である。
今回のセミナーは、『公共空間の政治理論』『生きられたニュータウン: 未来と空間の哲学』等の著者である篠原雅武さんをお招きし、都市環境デザインに関するお話をうかがうことにした。
篠原さんのお話しに引き続き、JUDI関西メンバーの鳴海邦碩、武田重昭のコメントを手掛かりに、意見交換を進めたいと考えている。



関西ブロックの6月セミナーは「文系(哲学)から見た都市環境デザイン」ニュータウン生まれの哲学者、篠原雅武氏の講演です。物事としての空間形成に先立つところにある領域性、潜在、深層にある活気をどう計画にいかすか？

●篠原雅武さんプロフィール
1975年生まれ。京都大学特定准教授。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了（哲学・公共空間論・環境人文学）。大阪大学特任准教授等を経て現職。単著書に『公共空間の政治理論』『空間のために』『全―生活論』『生きられたニュータウン』『複数性のエコロジー』『人新世の哲学』。

都市環境デザイン会議 活動記録 2019年1月-6月

月	1	2	3	4	5	6
上旬	【関西ブロック】 #2019年第1回都市環境デザインセミナー 公共空間における「青空市」の役割を再考する	【北陸・東北ブロック】 公募型プロジェクト JUDI東北＆JUDI北陸酒蔵プロジェクト 《報告1》 《報告2》 《報告3》 《報告4》 《報告5》	【全国ブロック】 #JUDI全国集会（西日本） 《報告》 【関西ブロック】 #2019年第2回都市環境デザインセミナー 飲兵衛のための都市づくり 《報告》	【関西ブロック】 2019年第3回都市環境デザインセミナー 建築家の街との係わり方ー岸上純子と梅田・中津の場合 《報告》 【中部ブロック】 公募型プロジェクト ローカル線の環境デザイン1 《報告》	【北陸ブロック】 都市環境デザイン会議北陸フォーラムin新潟2019 港のある街〜新潟の歴史的特性と未来を考える〜 《報告》 《報告1》 《報告2》 《報告3》 《報告4》 《報告5》 《報告6》 《報告7》 【中部ブロック】 公募型プロジェクト ローカル線の環境デザイン2 《報告1》 《報告2》	【中部ブロック】 公募型プロジェクト ローカル線の環境デザイン3 《報告1》 《報告2》 《報告3》
中旬	【北陸ブロック】 JUDI石川 2019新春の宴 《報告1》 《報告2》 《報告3》 四国ブロック意見交換会		【全国ブロック】 #JUDI全国集会（東日本） 《報告》 関西ブロックの意見交換会 【国際委員会】JUDI通信2019春号	【関西ブロック】 JUDIフォーラム2019 「身近な変化の兆しから都市の未来を考える」 《報告》		【国際委員会】JUDI通信2019夏号
下旬					【関東ブロック】 #拡大セミナー・街歩き講演会 男山団地の団地再生と地域再生等の取り組みを訪ねる 《報告1》 《報告2》 《報告3》 《報告4》 《報告5》	【関西ブロック】 2019年第4回都市環境デザインセミナー 文系（哲学）から見た都市環境デザイン 《報告》

ご興味のある項目をクリックしてみてください。